

れんさい 監査の四季

第3回 鯖江市代表監査委員
川中清司

あばれ川いま穏やかに

緑をはぐくむ恵みの梅雨も、過ぎれば痛ましい災害をひき起こす。4年前に起きた浅水川氾濫の惨事は、今もまだ脳裏に新しい。

平成10年7月10日、1時間に30mmをこす豪雨は濁流となって道路を越え、336戸に浸水し、238haの田畑は泥海となり、各地で土砂崩れや地滑りが起こり、ついにJR北陸線もストップしました。

この水系は古くから氾濫を繰り返



返し、養老元年(717)に日野川・松ヶ鼻が大洪水で堤防が決壊して、流れを東に変えたという記録があります。

浅水川の改修は鯖江市の最も重要な事業の一つで規模が大きく、福井県とともに昭和57年から着工した長い期間の工事となっていました。

下流の治水対策や川幅拡幅も合わせて進めようと辻市長は、県や国などあらゆる機関に働きかけながら、河川課を設けて地元の土地交渉を急ぎ、精力的に早期完成を押し進めました。

総工費は二五〇億円、堤防の長さは7.4km、買収用地は面積13.5haでサンドームの約十個分となり、架け替えた橋は5本、いま工事中のものや鉄道橋など合わせて11本という実に大きな工事となりました。

ようやく来秋には完成の見通しとなり、浅水川は今、あばれ川から穏やかな流れに姿を変えようとしています。